

週間漁海況情報 2021年第10号

令和3年3月9日発行

徳島県立農林水産総合技術支援センター
水産研究課海洋生産技術担当

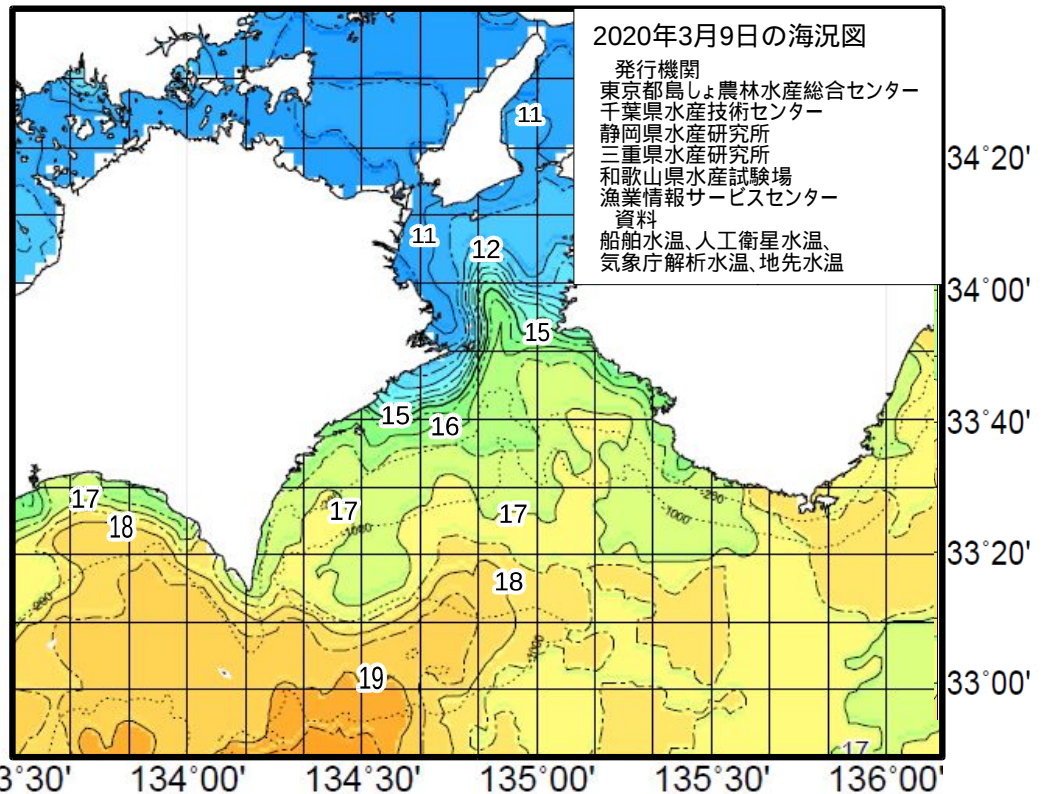
海況

1. 周辺海域の水温等

紀伊水道沖の黒潮は、室戸岬沖36マイル、潮岬沖96マイルを流れ、室戸岬沖で「やや離岸」、潮岬沖で「著しく離岸」となっている。

黒潮から室戸岬周辺に17台の暖水波及が見られる。紀伊水道には15台の暖水が差し込む一方、紀伊水道から海部沿岸に12~15台の内海水が張り出している。

黒潮の表面水温は19~20台。徳島周辺海域の水温は、播磨灘は10台、紀伊水道は10~15台、海部沿岸は12~13.30' 134.00' 134.30' 135.00' 135.30' 136.00' 16台となった。



2020年3月9日の海況図
発行機関
東京都島しょ農林水産総合センター
千葉県水産技術センター
静岡県水産研究所
三重県水産研究所
和歌山県水産試験場
漁業情報サービスセンター
資料
船舶水温、人工衛星水温、
気象庁解析水温、地先水温

黒潮の離接岸の表現

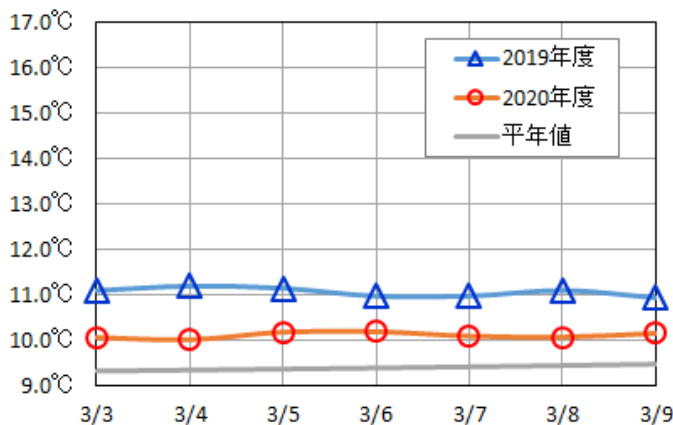
(いずれも正南方向)
室戸岬沖 接岸: ~25NM やや離岸: 25~45NM 離岸: 45~65NM 著しく離岸: 65NM~
潮岬沖 接岸: ~26NM やや離岸: 26~56NM 離岸: 56~86NM 著しく離岸: 86NM~

直近4日分の海況図を水産研究課HPに掲載しています。

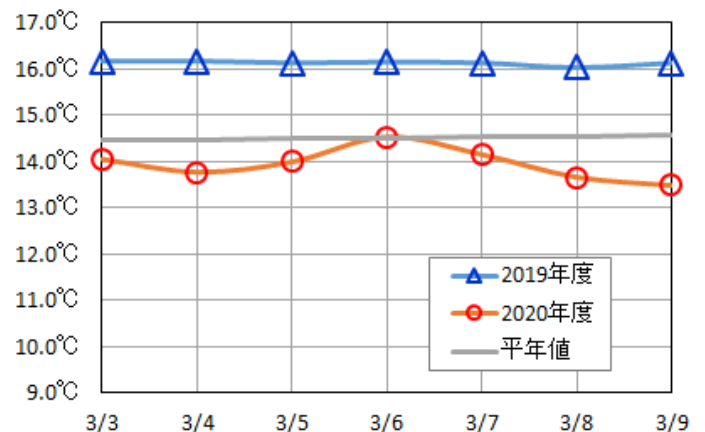
2. 地先水温 (2021年3月3日~3月9日)

鳴門地区の水温は気温の影響を受け「やや高め」の10.0~10.2 で推移した。日和佐地区の水温は内海水の南下の影響により「平年並み」から「やや低め」の13.5~14.5 で推移した。鳴門と日和佐地区の水温差は3.3~4.4 になった。

鳴門地区



日和佐地区



水温の高低 平年並み: 平年値 ± 0.5 未満, やや高め/やや低め: 平年値 ± 0.5 以上 1.5 未満
高め/低め: 平年値 ± 1.5 以上 2.5 未満, かなり高め/かなり低め: ± 2.5 以上
平年値 1984年~2018年の平滑平均値

3. 週間予報 (3月10日~3月16日)

黒潮は、室戸岬沖で「やや離岸」から「離岸」、潮岬沖で「著しい離岸」で推移する見込み。

地先水温は、鳴門地区は「やや高め」、日和佐地区は「平年並み」から「やや低め」で推移する見込み。

漁況 2021年3月1日～3月7日

荒天のため出漁日数少なく、水揚げは全般に低調であった。

1. 紀伊水道（標本漁協：4）

釣りでは、タチウオが減って0.1ト水揚げされた。

延縄では、タチウオが大きく減って特大主体に0.5ト、ブリが大きく減ってめじろ級主体に0.3ト水揚げされた。

小型定置網では、ブリが0.6ト水揚げされた。

底びき網では、コウイカが大きく減って大主体に0.6ト、さめ類が0.2ト、ホウボウが大きく減って0.1ト水揚げされた。

2. 海部沿岸（標本漁協：4）

釣りでは、タチウオが大きく減って0.7ト水揚げされた。

建網では、ヒラメが減って0.2ト水揚げされた。

小型定置網では、すずき類が大きく増えて大主体に0.1ト水揚げされた。

大型定置網では、ブリが増えて0.7ト、ウスバハギが大きく増えて大主体に0.4ト、クロダイが増えて大主体に0.2ト、イシダイが大きく増えて大主体に0.2ト水揚げされた。

漁獲量集計表（漁獲量が0.2トン以上のものを抜粋）

海区	漁業種類	出漁隻数 (のべ)	魚種	漁獲量	(kg)	銘柄	前週比
					1日1隻あたり 平均漁獲量		
紀伊水道	釣り	3	タチウオ	119	40		
	延縄	16	タチウオ	502	31	特大主体	
		11	ブリ	277	25	めじろ級主体	
	小型定置網	5	ブリ	552	110		→
	底びき網	10	コウイカ	631	63	大主体	
		6	さめ類	232	39		→
		10	ホウボウ	142	14		
海部沿岸	釣り	14	タチウオ	733	52		
	建網	16	ヒラメ	219	14		
	小型定置網	11	すずき類	114	10	大主体	
	大型定置網	2	ブリ	748	374		
			ウスバハギ	442	221	大主体	
			クロダイ	188	94	大主体	
イシダイ			171	85	大主体		

前週比 200%以上： 120-200%： 80-120%： 50-80%： 50%未満：